

大学の世界展開力強化事業(AIMSプログラム) 取組概要

代表校:東京農工大学 国内連携大学:茨城大学、首都大学東京

【構想の名称】(選定年度25年度・AIMSプログラム)

ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEANIにおける開発・成長、自然と人間社会の共存を図るためのプラットフォームを構築し、環境に配慮できるグローバル人材

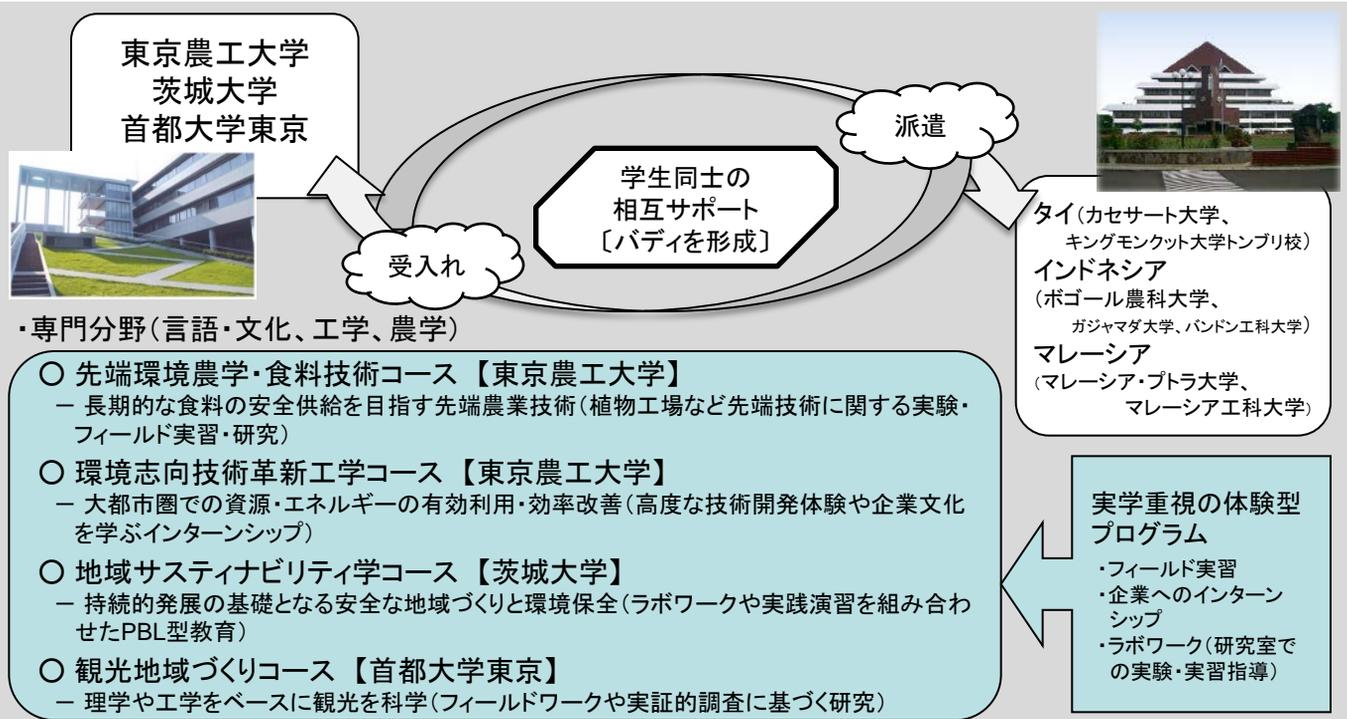
【構想の概要】

- ・ASEANの発展に貢献する人材育成コンソーシアムの構築
- ・3大学それぞれの特色を活かした、4つのコースの開設
- ・ASEANの歴史・文化、社会・経済を学ぶなど、ASEANへの理解を深める派遣プログラムの構築
- ・本プログラム終了後の大学院修士課程進学を促進する大学院ダブルディグリーコースの設置

■ 交流プログラムの質の保証

GPAの導入により、客観的な成績評価を実施しているほか、学内に単位相互認定審査委員会を設置し、厳格な成績管理の下、単位の実質化を図る。

■ 交流プログラムの内容



・専門分野(言語・文化、工学、農学)

○ 先端環境農学・食料技術コース【東京農工大学】

ー 長期的な食料の安全供給を目指す先端農業技術(植物工場など先端技術に関する実験・フィールド実習・研究)

○ 環境志向技術革新工学コース【東京農工大学】

ー 大都市圏での資源・エネルギーの有効利用・効率改善(高度な技術開発体験や企業文化を学ぶインターンシップ)

○ 地域サステナビリティ学コース【茨城大学】

ー 持続的発展の基礎となる安全な地域づくりと環境保全(ラボワークや実践演習を組み合わせたPBL型教育)

○ 観光地域づくりコース【首都大学東京】

ー 理学や工学をベースに観光を科学(フィールドワークや実証的調査に基づく研究)

実学重視の体験型プログラム

- ・フィールド実習
- ・企業へのインターンシップ
- ・ラボワーク(研究室での実験・実習指導)

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

注)H25は実績、H26以降は申請時の計画

| | H25 | | | | | | H26 | | | | | | H27 | | | | | | H28 | | | | | | H29 | | | | | |
|-------|-----|---|---|---|---|---|-----|----|---|---|---|---|-----|----|---|---|---|---|-----|----|---|---|---|---|-----|----|----|---|---|---|
| | M | I | T | V | P | B | M | I | T | V | P | B | M | I | T | V | P | B | M | I | T | V | P | B | M | I | T | V | P | B |
| 学生の派遣 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 13 | 7 | - | - | - | 9 | 14 | 7 | - | - | - | 12 | 15 | 9 | - | - | - | 15 | 19 | 11 | - | - | - |
| 学生の受入 | 0 | | | | | | 27 | | | | | | 30 | | | | | | 36 | | | | | | 45 | | | | | |

M: マレーシア I: インドネシア T: タイ V: ベトナム P: フィリピン B: ブルネイ

※AIMSプログラムの一環として、マレーシア、インドネシアとの短期派遣・受入プログラムを、H25.3に実施(派遣:42人、受入:26人)。

■ 外国人学生の受入・日本人学生派遣のための環境整備

○ 外国人学生に対するサポート体制

- ・プログラムコーディネーターの配置 / ・来日前の留学相談対応

○ 日本人学生に対するサポート体制

- ・事前教育の実施(語学力強化、留学先地域の概況学習)
- ・留学中の相談体制の確立(派遣先大学・派遣元大学)

○ 日本人学生・外国人学生に対するサポート体制

- ・AIMS大学生と日本人学生同士の相互サポート(バディ制度)を構築
- ・グローバルカフェ等を活用した日常的な交流の場の提供



〈「クール・ジャパン」をテーマとしたAIMS留学生による発表〉

〈サステナビリティワークショップに参加するAIMS留学生〉